

『唐詩選解』



函架番号 921.43/T。版本 1冊。縦 22.5cm×横 15.7cm。袋綴。144丁。楮紙。茶色無地表紙。外題は左肩に題簽で「唐詩選註解」、内題「唐詩選解」。「ノートルダム清心女子大学蔵書之印」「風静」の朱陽蔵書印。本書は宇野成之（東山・耕斉）の『唐詩選』の注釈であるが、内容は服部南郭の『唐詩選国字解』と酷似し、巻頭には宇野自身の序に続いて服部南郭の序を置く。自序に「天明癸卯之秋」とあるのは奥書と一致するから本書の成立は天明3年（1783）と分かるが、奥書の「再刻」は不自然である。『唐詩選国字解』は寛政3年（1791）の刊行とされていたが、近年『唐詩選国字解』の天明2年（1782）初版本が南郭家の蔵書が収まる

早稲田大学の服部文庫から発見された（有本大輔）。とすると、奥書の「再刻」は『唐詩選国字解』の二版を装ったとも考えられるが、問題はそう簡単ではない。本書はまた遡ること明和3年（1766）の宇野自身の『唐詩国字辯』『唐詩選諺解』と本文が一致するからである。事は高山房と文林軒による『唐詩選』の版權争い、分けても天明4年（1784）の文林軒による本書の没収と関連するであろうが、そうすると、服部南郭『唐詩選国字解』の信憑性も危うくなる。奥書墨書の「宇野耕斉塾版」はその経緯を探る一資料となる。なお奥書に記される所蔵者、神崎村の奥山犀吉は不明。

（文学部日本語日本文学科教授 小野泰央）